

第114期
中間
報告書

株主のみなさまへ

2016 / 12 / Vol.52

DOWA

証券コード:5714



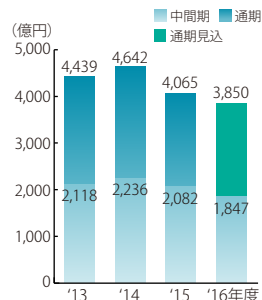
連結決算ハイライト

	2014年3月期 (2013年度)	2015年3月期 (2014年度)	2016年3月期 (2015年度)	2017年3月期見込 (2016年度)	2017年3月期中間期 (2016年度中間期)
売上高 (億円)	4,439	4,642	4,065	3,850	1,847
営業利益 (億円)	317	390	350	290	133
経常利益 (億円)	350	420	350	290	135
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益 (億円)	233	265	218	200	98
総資産 (億円)	3,587	3,791	3,644	—	3,649
純資産 (億円)	1,669	1,956	2,033	—	2,022
1株当たり当期純利益 (円)	78.77	89.69	73.75	67.58	—
1株当たり配当金 (円)	15	18	18	18	—
1株当たり純資産 (円)	534.75	632.30	658.66	—	655.74
総資産経常利益率(ROA) (%)	9.9	11.4	9.4	8.0	—
自己資本当期純利益率(ROE) (%)	16.0	15.4	11.4	10.3	—
設備投資額 (億円)	165	172	229	310	121
減価償却費 (億円)	162	155	151	177	71
有利子負債 (億円)	996	866	811	—	853

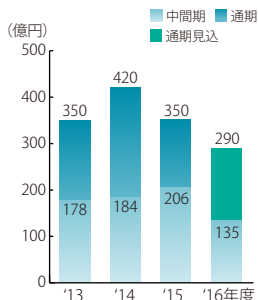
※ROAは経常利益を期中平均総資産で割って計算しております。

※ROEは親会社株主に帰属する当期純利益を期中平均自己資本で割って計算しております。

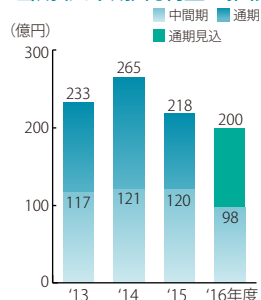
売上高の推移



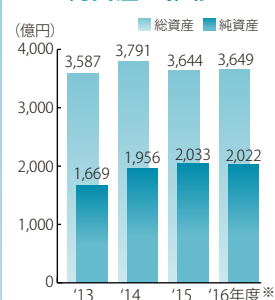
経常利益の推移



親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益の推移



総資産および 純資産の推移



※'16年度については中間期実績



2016年度(2017年3月期) 中間期の連結経営成績と 今後の取り組み

代表取締役社長
山田 政雄

2016年度中間期の連結経営成績

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2016年度中間期における当社グループの事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、緩やかな回復基調にありました。世界経済についても緩やかな成長が継続しましたが、中国などアジア新興国の景気減速リスクなどにより、先行きは引き続き不透明な状況です。

当社グループの事業環境については、自動車関連製品の需要は国内・海外とも比較的堅調に推移しました。スマートフォン関連製品は一部で低調な状況が継続しました。新エネルギー関連製品は引き続き堅調に推移しました。相場環境については、貴金属や亜鉛などの金属価格に上昇傾向がみられ、為替相場は円高が進行しました。

このような状況のなか、当社グループは2015年度から始まった中期計画の基本方針に沿って、海外事

業のさらなる拡大、成長市場・周辺分野への展開による事業拡大、事業競争力の継続的強化に向けた施策を実施してきました。

これらにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比235億円減の1,847億円となり、営業利益は同69億円減の133億円、経常利益は同70億円減の135億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同21億円減の98億円となりました。

(単位:億円)

	2015年度 上期実績	2016年度上期		増減	
		計画※	実績	前年同期比	計画比
売上高	2,082	1,850	1,847	△235	△2
営業利益	202	115	133	△69	+18
経常利益	206	105	135	△70	+30
親会社株主に帰属 する四半期純利益	120	75	98	△21	+23

※2016年5月10日公表値

今後の取り組みと重点施策

2016年度は市場動向を見極めながら、次に挙げる施策を着実に実行していきます。

● 海外事業のさらなる拡大

環境・リサイクル部門では、インドネシアやタイでの最終処分場の新設・拡張に向けた環境アセスメントを進めます。製錬部門では、米国や欧州、中国の拠点を活用した白金族リサイクル原料の集荷を拡大します。金属加工部門では、中国拠点を活用したスマートフォン向け高特性銅合金を拡販します。また、メキシコで貴金属めっき工場を立ち上げます。熱処理部門では、メキシコで熱処理加工工場を立ち上げます。

● 成長市場・周辺分野への展開による事業拡大

今後も成長が見込まれるハイブリッドカーなどの自動車分野では、大型端子向け高耐熱・高導電銅合金の開発を進めます。情報通信機器分野では、小型化や薄型化に対応したコネクタ向け銅合金を拡販します。パワー半導体分野では、はんだの代替となる新たな接合材料や軽量小型で高い

放熱性を有する金属-セラミックス基板のサンプルワークを拡大します。これらに加え、ヘルスケア機器向けLEDや次世代タッチパネル向け導電材料など、今後の市場の立ち上がりが見込まれる分野での新規製品の開発やサンプルワーク拡大を進めます。

● 事業競争力の継続的強化

環境・リサイクル部門では、低濃度PCB廃棄物処理のコスト競争力を強化します。製錬部門では、秋田製錬(株)において焙焼炉を新設・更新し、小坂製錬(株)において不純物対応力強化と副産金属の回収能力を強化します。電子材料部門では、需要拡大が続く新エネルギー向け銀粉の生産性を向上します。金属加工部門では、銅合金や貴金属めっき、金属-セラミックス基板の生産性向上とコスト競争力強化に取り組みます。熱処理部門では、国内の熱処理加工の新規受注を拡大します。また、熱処理炉の製造コスト低減による競争力強化に取り組みます。

<今後の重点施策>

環境・リサイクル部門	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアやタイでの最終処分場の新設・拡張に向けた環境アセスメントの推進 ・メルテックいわき(株)での新規設備の建設推進など一般廃棄物の溶融・再資源化事業の拡大 ・新たな土壌浄化工法による自然由来汚染土壌の処理推進
製錬部門	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)日本ピージーエムの設備増強、海外からの原料集荷拡大など白金族リサイクル事業の拡大 ・秋田製錬(株)における焙焼炉の新設・更新、小坂製錬(株)での副産金属の回収能力強化 ・メキシコでのロス・ガトス亜鉛プロジェクトの開発可能性調査の完了、開発工事への移行
電子材料部門	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン向け、ヘルスケア機器向けLEDの開発・用途展開 ・需要拡大が続く新エネルギー向け銀粉の生産性向上、増産体制強化 ・データテープの大容量化に対応した次世代磁性材料の特性向上
金属加工部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドカー向け高耐熱・高導電銅合金の開発・拡販 ・中国拠点を活用したスマートフォン向け高特性銅合金の拡販、メキシコでの貴金属めっき工場立ち上げ ・軽量小型で高放熱性を有するパワー半導体向け金属-セラミックス基板の用途拡大
熱処理部門	<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコでの熱処理加工工場立ち上げ、インド製メンテナンス部品の東南アジア向け拡販 ・国内での熱処理加工の新規受注拡大、熱処理炉製造の生産性向上・コスト競争力強化 ・コスト競争力の高い小型熱処理設備の商品化、新規分野での用途開拓

2016年度(2017年3月期)の見通し

世界経済は緩やかな成長が継続しているものの、中国や東南アジアの景気減速リスクなどもあり、先行きは不透明な状況が続くと予想しています。

こうした不透明な事業環境も織り込み、2016年度の業績予想については、売上高は前期比215億円減の3,850億円、経常利益は同60億円減の290億円を計画しています。今後も市場動向を見極めながら、引き続き各施策を

着実に実行し、事業の強化を進めていきます。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年度計画

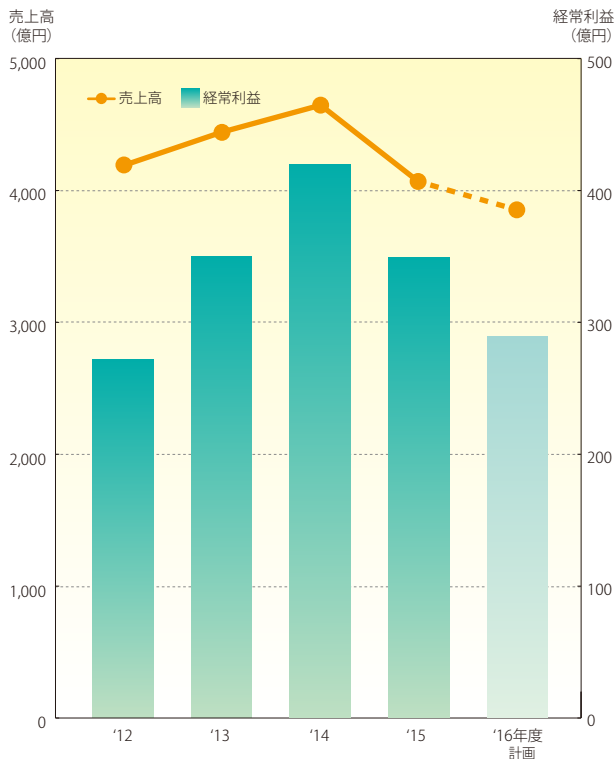
(単位:億円)

	2015年度実績	2016年度計画	増減
売上高	4,065	3,850	△215
営業利益	350	290	△60
経常利益	350	290	△60
親会社株主に帰属する当期純利益	218	200	△18

相場前提

	2015年度		2016年度	
	上期実績	通期実績	上期実績	下期前提
為替 (円/\$)	121.8	120.1	105.3	105.0
銅 (\$/t)	5,653	5,215	4,752	4,600
亜鉛 (\$/t)	2,019	1,831	2,084	2,300
インジウム (\$/kg)	369	302	222	200

これまでの業績推移と2016年度の計画



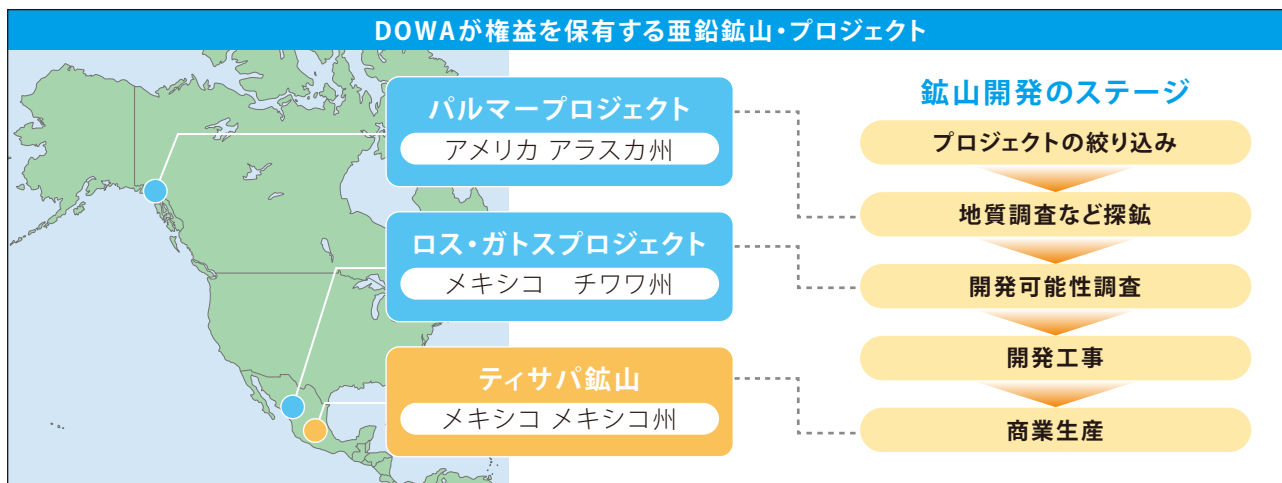
■ 亜鉛の鉱山開発の取り組み

● 製錬事業における鉱山開発の位置付け

DOWAは、小坂製錬(株) (銅製錬・鉛製錬・貴金属製錬)と秋田製錬(株) (亜鉛製錬) を中核とした独自のリサイクル・製錬コンビナートを構築しています。製錬所間での中間産物のやりとりを通じて、多様な原料から、単独の製錬所では回収が難しい20種類以上の有価金属を回収しています。主力原料である亜鉛精鉱から秋田製錬(株)で亜鉛を回収したのち、さらに小坂製錬(株)に送り、銀など付加価値の高い有価金属を回収します。

DOWAは、亜鉛精鉱の安定調達に向けた鉱山開発に取り組んでいます。鉱山開発では、亜鉛だけではなく銀やレアメタルを多く含むDOWAのリサイクル・製錬コンビナートの特長を活かせること、安定調達のためカントリーリスクの低い地域にある鉱山を複数保有することを方針に掲げています。

現在、商業生産しているティサパ鉱山のほか、ロス・ガトス、パルマーの2プロジェクトを進めています。



● ティサパ鉱山

DOWAが39%の権益を持つティサパ鉱山は1994年から商業生産を開始しました。現在までの約20年間で11.7百万トンの鉱石を採掘し、未採掘の鉱石は約10百万トンと推定しています。



ティサパ鉱山全景



坑内掘りの様子

● ロス・ガトス

ロス・ガトスでは、すでに12百万トンの推定埋蔵鉱量を確認しています。ティサパ鉱山と同様、銀の品位が高く、有望な案件です。

DOWAはすでに開発可能性調査費として50百万米ドルを拠出しており、30%の権益と商業生産後に亜鉛精鉱を全量引き取る権利を保有しています。

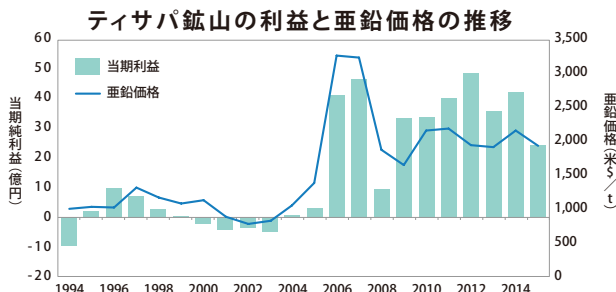
2016年内に開発可能性調査を完了し、開発工事に進む予定であり、数年後の商業生産開始を見込んでいます。

● 鉱山開発の中長期計画

製錬原料の安定調達を示す度合いの1つに自山鉱比率があります。これは、回収された金属のうち、権益を保有する鉱山の精鉱から回収された金属の比率を表します。

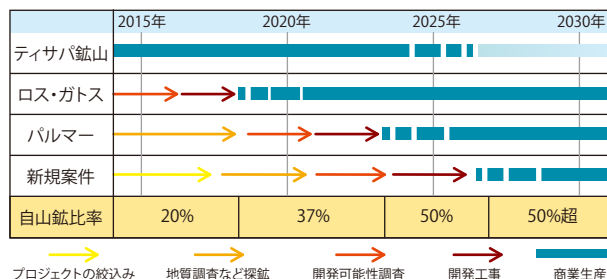
DOWAは将来的に亜鉛製錬の自山鉱比率を50%以上に高めることで、原料を安定的に確保し、リサイクル・製錬コンビナートの事業基盤を強化していきます。

ティサパ鉱山は、鉱石中に含まれる銀の品位が高く収益性が高いことが特長です。現在の亜鉛価格でも着実に利益を上げており、配当などによるDOWAへのリターンも累計130億円を超えています。



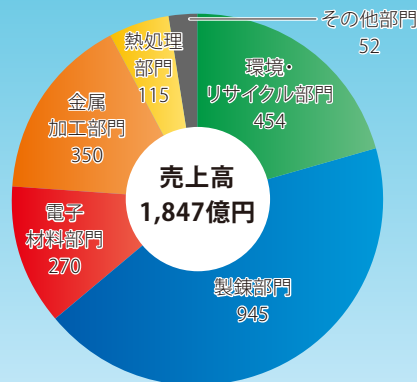
ロス・ガトス 鉱石のサンプル(左)、坑道入口(右)

亜鉛の自山鉱比率向上に向けた取り組み



部門別の 営業状況

部門別売上高構成 (2016年度 中間期)



※各部門の売上高には、連結調整による消去分341億円を含んでいます。

凡例 — 通期売上高 — 中間期売上高 — 通期営業利益 — 中間期営業利益

※'16年度の通期は見込です

環境・リサイクル部門

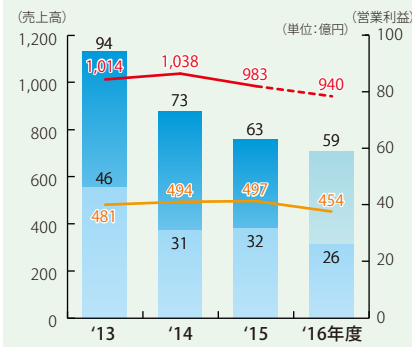
廃棄物処理は、国内の産業廃棄物発生量が弱含むなか、廃棄物の処理単価が一部で低下した影響を受けました。土壌浄化は、既存の浄化工法に加え、自然由来汚染土壌に対応した浄化工法による受注が増加しました。リサイクルは、電子部品スクラップの国内外での集荷拡大に努めました。東南アジア事業では、廃棄物処理の拡大に努めたものの、インドネシアやタイにおいて、石油・天然ガス開発に関連する廃棄物処理の受注が減少しました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比9%減の454億円、営業利益は同19%減の26億円となりました。



エコシステム花岡樹の土壌浄化設備

部門別連結売上高・営業利益の推移



製錬部門

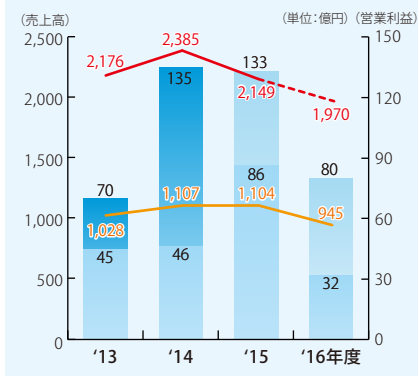
金属価格については、銅やインジウムは前年同期の水準を割り込みました。一方、金や銀、亜鉛は前年同期の価格を上回りました。為替相場は前年同期に比べて約17円の円高水準となりました。このような状況のなか、各製錬所の稼働は引き続き順調に推移しました。コスト面では電力原単位や物品費の削減に努めました。また、原油価格下落による電力価格引き下げのメリットも受けました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比14%減の945億円、円高や金属価格下落の影響を受けたことなどにより、営業利益は同62%減の32億円となりました。



秋田製錬(株)の電解工程

部門別連結売上高・営業利益の推移



電子材料部門

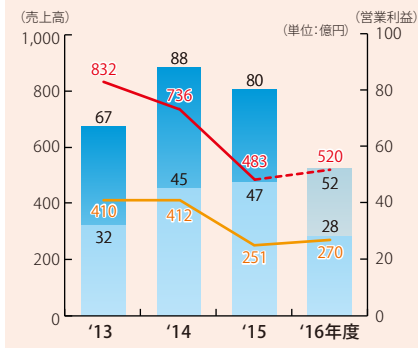
半導体材料製品は、スマートフォン向けの需要が低調に推移したため、販売が減少しました。導電材料製品は新エネルギー向けの銀粉を拡販し、機能材料製品は、データテープ用磁性材料の拡販を進めました。また、市場ニーズに応える新規製品開発に引き続き取り組みました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比8%増の270億円となりましたが、半導体材料製品の減販に加え、輸出製品が円高の影響を受けたことなどにより、営業利益は同39%減の28億円となりました。



銀粉

部門別連結売上高・営業利益の推移



金属加工部門

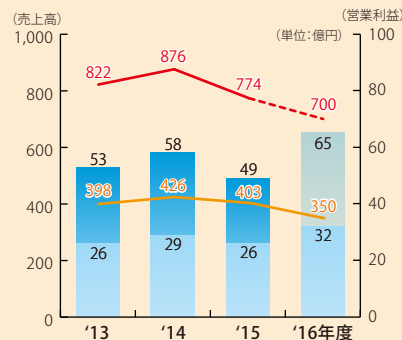
端子やコネクタに使われる伸銅品は、自動車向けでは、海外を中心に自動車生産台数が増加するなか、販売を堅調に伸ばしました。スマートフォン向けでは、東アジアを中心に高強度品を拡販しました。貴金属めっき加工は、自動車の電装化需要を取り込み堅調に推移しました。金属-セラミックス基板は、産業機械向けの需要は回復しつつあるものの、鉄道向けは中国での設備投資減退の影響を受けました。

これらの結果、当部門の売上高は銅価格の下落もあり、前年同期比13%減の350億円となりましたが、営業利益は同21%増の32億円となりました。



伸銅品

部門別連結売上高・営業利益の推移



熱処理部門

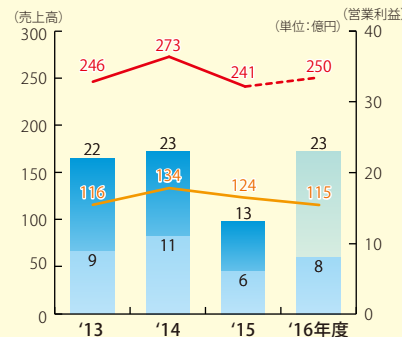
熱処理加工は、自動車産業の成長が続く海外地域での事業拡大を推進するなか、インドやタイ、中国において受注拡大を図りました。また、国内では堅調な受注に加えて原油価格下落による燃料コスト低減も収益に寄与しました。熱処理炉は、海外向けの設備拡販やメンテナンス受注の拡大に努めましたが、受注は伸び悩みました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比8%減の115億円となりましたが、製造コストの低減などにより、営業利益は同44%増の8億円となりました。



セム(株)の熱処理設備

部門別連結売上高・営業利益の推移



地図で見るDOWAグループ

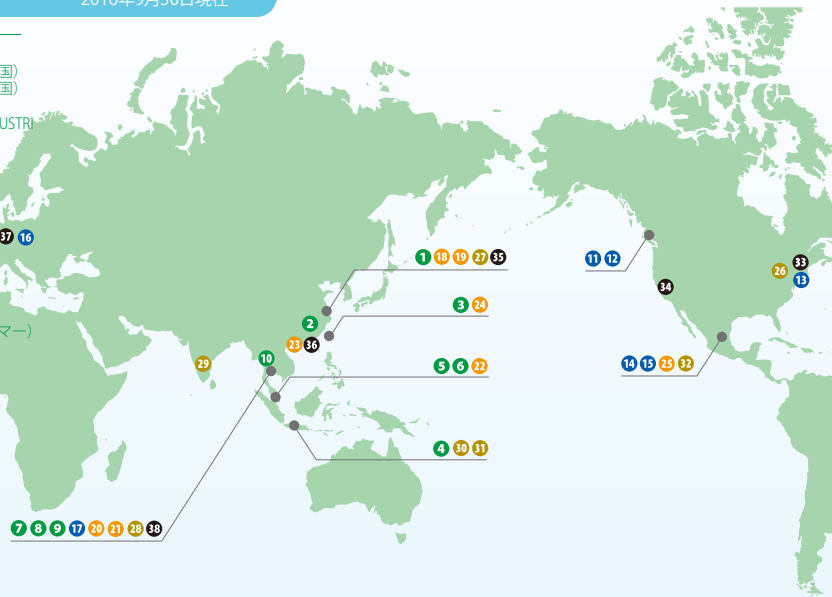
2016年9月30日現在

DOWAエコシステム(株)

- 1 蘇州同和資源综合利用有限公司(中国)
- 2 江西同和資源综合利用有限公司(中国)
- 3 台湾事務所
- 4 PT. PRASADHA PAMUNAH LIMBAH INDUSTRI (インドネシア)
- 5 TECHNOCHEM ENVIRONMENTAL COMPLEX PTE. LTD. (シンガポール)
- 6 DOWA ECO-SYSTEM SINGAPORE PTE. LTD. (シンガポール)
- 7 WASTE MANAGEMENT SIAM LTD. (タイ)
- 8 BANGPOO ENVIRONMENTAL COMPLEX LTD. (タイ)
- 9 EASTERN SEABOARD ENVIRONMENTAL COMPLEX CO., LTD. (タイ)
- 10 GOLDEN DOWA ECO-SYSTEM MYANMAR COMPANY LIMITED (ミャンマー)

DOWAメタルマイン(株)

- 11 バンクーバー事務所(カナダ)
- 12 CARIBOO COPPER CORPORATION (カナダ)
- 13 NIPPON PGM AMERICA, INC. (アメリカ)
- 14 メキシコ事務所
- 15 MINERA TIZAPA, S.A. DE C.V. (メキシコ)
- 16 Nippon PGM Europe s.r.o. (チェコ)
- 17 DOWA METALS & MINING (THAILAND) CO., LTD. (タイ)



DOWAメタルテック(株)

- 18 同和金属材料(上海)有限公司(中国)
- 19 同和新材料(上海)有限公司(中国)
- 20 DOWA METALTECH (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
- 21 Dowa Precision (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
- 22 シンガポール支店
- 23 深圳営業所(中国)
- 24 同和利精密部品股份有限公司(台湾)
- 25 DOWA METALTECH MEXICO, S.A. DE C.V. (メキシコ)

DOWAサーモテック(株)

- 26 DOWA THT AMERICA, INC. (アメリカ)
- 27 昆山同和熱処理工業炉有限公司(中国)
- 28 DOWA Thermotech (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
- 29 HIGHTEMP FURNACES Ltd. (インド)
- 30 PT. DOWA THERMOTECH INDONESIA (インドネシア)
- 31 PT. DOWA THERMOTECH FURNACES (インドネシア)
- 32 DOWA THERMOTECH MEXICO, S.A. DE C.V. (メキシコ)

本社、その他

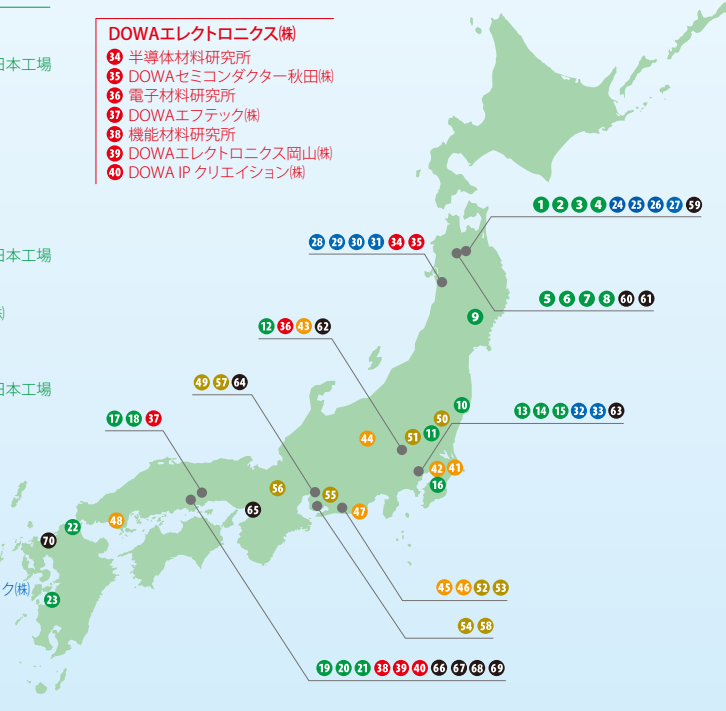
- 33 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION (アメリカ)
- 34 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION サンノゼ事務所(アメリカ)
- 35 同和企業管理(上海)有限公司(中国)
- 36 同和企業管理(上海)有限公司 深圳分公司(中国)
- 37 DOWA HD Europe GmbH(ドイツ)
- 38 DOWA HOLDINGS (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

DOWAエコシステム(株)

- 1 グリーンフィル小坂(株)
- 2 エコシステムリサイクル(株) 北日本工場
- 3 エコシステム小坂(株)
- 4 オートリサイクル秋田(株)
- 5 環境技術研究開発センター
- 6 エコシステム秋田(株)
- 7 エコシステム花岡(株)
- 8 (株)エコリサイクル
- 9 DOWA通運(株)
- 10 メルテックいわき(株)
- 11 メルテック(株)
- 12 エコシステムリサイクル(株) 東日本工場
- 13 エコシステムジャパン(株)
- 14 ジオテクノス(株)
- 15 イー・アンド・イーソリューションズ(株)
- 16 エコシステム千葉(株)
- 17 エコシステム山陽(株)
- 18 岡山鉱油(株)
- 19 エコシステムリサイクル(株) 西日本工場
- 20 エコシステム岡山(株)
- 21 バイオディーゼル岡山(株)
- 22 光和精鉱(株)
- 23 アクトビーリサイクル(株)

DOWAエレクトロニクス(株)

- 39 半導体材料研究所
- 39 DOWAセミコンダクター秋田(株)
- 39 電子材料研究所
- 37 DOWAエフテック(株)
- 38 機能材料研究所
- 39 DOWAエレクトロニクス岡山(株)
- 40 DOWA IP クリエイション(株)



DOWAメタルテック(株)

- 41 新日本プラス(株)
- 42 豊栄商事(株)
- 43 DOWAハイテック(株)
- 44 DOWAパワーデバイス(株)
- 45 技術センター
- 46 DOWAメタル(株)
- 47 DOWAメタニクス(株)
- 48 TDパワーマテリアル(株)

DOWAサーモテック(株)

- 49 サーモ技術開発センター
- 50 DOWAサーモエンジニアリング(株) 真岡工場
- 51 DOWAサーモエンジニアリング(株) 太田工場
- 52 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松工場
- 53 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松北工場
- 54 DOWAサーモエンジニアリング(株) 中京半田工場
- 55 DOWAサーモエンジニアリング(株) 豊田工場
- 56 DOWAサーモエンジニアリング(株) 滋賀工場
- 57 (株)セム
- 58 東熱興産(株)

本社、その他

- 59 DOWAテクノリサーチ(株)
- 60 卯根倉鉱業(株)
- 61 秋田工管(株)
- 62 DOWAテクノロジー(株) 関東テクノセンター
- 63 本社
- 64 DOWAグループ名古屋支店
- 65 DOWAグループ大阪支店
- 66 DOWAテクノロジー(株) 西部テクノセンター
- 67 DOWAテクノエンジニア(株)
- 68 陽和工管(株)
- 69 DOWA興産(株)
- 70 DOWAグループ九州支店

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2015年度 2016.3.31	2016年度 中間期 2016.9.30	比較増減
資産の部			
流動資産	168,662	168,381	△280
現金及び預金	19,364	16,261	△3,103
受取手形及び売掛金	62,202	60,433	△1,769
棚卸資産	69,277	74,100	4,822
その他流動資産	17,817	17,586	△231
固定資産	195,758	196,519	761
有形固定資産	110,607	112,925	2,317
無形固定資産	10,296	9,882	△413
投資その他の資産	74,855	73,711	△1,143
資産合計	364,420	364,900	480

流動資産のポイント

たな卸資産が48億円の増加した一方で、現金及び預金が31億円、受取手形及び売掛金が17億円減少したことなどにより、前連結会計年度末比2億円の減少となりました。

固定資産のポイント

投資その他の資産が11億円減少した一方で、設備投資により有形固定資産が23億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比7億円の増加となりました。

総資産のポイント

以上の結果、前連結会計年度末比4億円の資産増加となりました。

(単位:百万円)

科目	2015年度 2016.3.31	2016年度 中間期 2016.9.30	比較増減
負債の部			
流動負債	100,646	106,254	5,608
支払手形及び買掛金	28,720	25,789	△2,930
短期借入金	32,407	37,122	4,714
コマーシャル・ペーパー	14,000	17,000	3,000
その他流動負債	25,518	26,342	824
固定負債	60,403	56,444	△3,959
社債	10,000	10,000	—
長期借入金	24,727	21,183	△3,544
その他固定負債	25,675	25,260	△415
負債合計	161,049	162,698	1,648
純資産の部			
株主資本	182,211	186,598	4,386
資本金	36,437	36,437	—
資本剰余金	26,426	26,343	△83
利益剰余金	125,049	129,519	4,470
自己株式	△5,701	△5,702	△0
その他の包括利益累計額	12,709	7,455	△5,253
非支配株主持分	8,449	8,147	△301
純資産合計	203,370	202,202	△1,168
負債及び純資産合計	364,420	364,900	480

負債のポイント

支払手形及び買掛金が29億円減少した一方で、有利子負債が41億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比16億円の増加となりました。

純資産のポイント

親会社株主に帰属する四半期純利益を98億円計上し、配当金の支払いなどを行った結果、株主資本が43億円増加しました。この結果、自己資本比率は53.2%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2015年度 中間期 2015.4.1~ 2015.9.30	2016年度 中間期 2016.4.1~ 2016.9.30	比較増減
売上高	208,272	184,758	△23,514
売上原価	171,021	154,537	△16,484
売上総利益	37,251	30,221	△7,030
販売費及び一般管理費	17,000	16,887	△112
営業利益	20,251	13,333	△6,917
営業外収益	1,923	1,914	△9
営業外費用	1,567	1,661	94
経常利益	20,607	13,586	△7,021
特別利益	189	442	253
特別損失	2,339	516	△1,822
税金等調整前四半期純利益	18,457	13,512	△4,945
法人税等	6,217	3,704	△2,512
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	178	△72	△251
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,061	9,879	△2,181

損益計算書のポイント

売上高は前年同期比235億円減の1,847億円、営業利益は同69億円減の133億円、経常利益は同70億円減の135億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同21億円減の98億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	2015年度 中間期 2015.4.1~ 2015.9.30	2016年度 中間期 2016.4.1~ 2016.9.30	比較増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△13	10,739	10,753
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,670	△11,886	△216
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,096	△1,262	△13,359
現金及び現金同等物に係る換算差額	△114	△692	△578
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	298	△3,103	△3,401
現金及び現金同等物の期首残高	8,044	18,902	10,857
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,342	15,798	7,456

営業キャッシュ・フローのポイント

税金等調整前四半期純利益135億円を計上した一方で、たな卸資産が56億円増加したことなどがあり、107億円の収入となりました。

投資キャッシュ・フローのポイント

主に有形固定資産の取得による支出103億円などにより、118億円の支出となりました。

財務キャッシュ・フローのポイント

有利子負債の増加44億円と配当金の支払い55億円などにより、12億円の支出となりました。

役員



代表取締役社長

山田 政雄



取締役

光根 裕



取締役

中塩 弘



取締役

松下 克治



取締役

加賀谷 進



社外取締役

細田 衛士



社外取締役

小泉 淑子



社外監査役(常勤)

岩渕 順一



監査役(常勤)

雪竹 克也



社外監査役

武田 仁



社外監査役

中曽根 一夫

執行役員



上席執行役員
DOWAエコシステム(株)
代表取締役社長

佐々木 憲一



上席執行役員
DOWAサーモテック(株)
代表取締役社長

住田 敏郎



執行役員
DOWAメタルマイン(株)
代表取締役社長

関口 明



執行役員
DOWAエレクトロニクス(株)
代表取締役社長

大塚 晃



執行役員
DOWAメタルテック(株)
代表取締役社長

菅原 章



執行役員
DOWAテクノロジー(株)
代表取締役社長

山田 潔

会社概要・株式の状況 (2016年9月30日現在)

会社概要

創業	1884年9月18日	主な事業内容
設立	1937年3月11日	環境・リサイクル事業、
資本金	364億37百万円	製錬事業、電子材料事業、
DOWAグループの社員数	約6,200人	金属加工事業、
		熱処理事業

株式の状況

会社が発行する株式の総数	1,000,000,000株
発行済み株式の総数	309,946,031株
株主数	11,282名

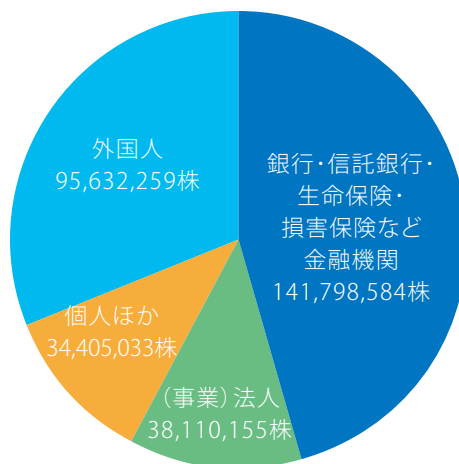
大株主

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9.99%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7.93%
藤田観光株式会社	4.79%
全国共済農業協同組合連合会	3.06%
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	2.73%
株式会社みずほ銀行	2.46%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2.18%
JFEスチール株式会社	1.87%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1.58%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1.54%

主要子会社

DOWAエコシステム(株)	環境・リサイクル事業会社
DOWAメタルマイン(株)	製錬事業会社
DOWAエレクトロニクス(株)	電子材料事業会社
DOWAメタルテック(株)	金属加工事業会社
DOWAサーモテック(株)	熱処理事業会社

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月
基 準 日	3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
法定公告掲載新聞	日本経済新聞(東京)
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(郵 便 物 送 付 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	電話番号 0120-782-031(フリーダイヤル)
(ホームページアドレス)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021

東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX22階

電話番号 03-6847-1100

ホームページアドレス <http://www.dowa.co.jp>

表紙写真: エコシステム山陽(株)の廃棄物処理施設

